

協議員から出された意見

第36回協議会

東京都の整備・開発・保全の方針の見直しについて	
意見	・東京都市計画の区域ごとの将来像を整理した表の中に「東京外かく環状道路、環状8号線の緑の軸周辺に」という記述がある。また、関連する区域の都市計画に関しては、交通施設の都市計画の決定の方針の「道路」に外かく環状道路について書いてある。【提出資料補足説明】 (宮良協議員)
	・外環地域の下水道はできれば分流方式を採用していくのが重要だと思う。 (武田協議員)
	・問題点の出たものについては、きちっと速やかに出して、速やかに議論するというようにして頂きたい。 (濱本協議員)
	・「整備、開発及び保全の方針」は今日出されたものなので、持ち帰って次回質問したい。 (新協議員)

練馬の問題について	
意見	・練馬の21項目は、大半は対応されているが、大江戸線の延伸など残されたものがある。今抱えている一番の問題は大泉インターチェンジ周辺の生活道路にインターチェンジ利用の通過車両が入り込んで区民の日常生活に大きな影響を与えていることである。【提出資料補足説明】 (平野協議員)
	・練馬の問題は何だといえ、外環整備で生じた交通を受けとめるだけの骨格整備をしていないということである。【提出資料補足説明】 (武田協議員)
	・発言は要旨を簡潔にまとめて最大5分以内で行うことというルールがあるので、司会者は守らせるように努力していただきたい。 (秋山協議員)
	・大気汚染測定運動練馬実行委員会というグループのNO ₂ の測定結果を見ると、外環の近い場所だけではなく、町全体として大気環境が悪化している。【提出資料補足説明】
	・大泉はもちろん、今後車の出入りが予想される地域で大気汚染の悪化による様々な影響が心配である。【提出資料補足説明】 (江崎協議員)
	・以前は外環に反対だといっていた練馬の人たちが、現実に自分たちの生活道路に車が入り込み、外環の南伸を促進しないと生活が保てないという状態になっているが、これは設計ミスか。それともこの設計でいけば住民が困って南伸を認めざるを得なくなるだろうという意図のもとに中途半端な設計をしたのか。
	・なぜ現実的に三原台のような問題が生じているのかが疑問なので、説明をして欲しい。 (渡辺協議員)
	・インターチェンジをつくるときに、その地域の骨格となる道路整備もあわせてやらないと、環境問題や弊害が出てくる。周辺をきちっと整備する必要がある。 (平野協議員)
	・国家的な道路をつくる場合に、地域の道路基盤の整備をなぜ一緒にやらなかったのか。
	・練馬周辺の地域の道路をいつまでに整備するのか。それをやれば練馬の方々も、我々もある程度納得できるのではないかと思う。 (濱本協議員)
	・東京都の第三次事業化計画の中で、補助230号線の笹目通りから大泉学園通りの区間と、放射7号線の大泉学園通りから区市境までの区間は優先的に整備するように位置づけている。
	・放射7号線では、現地を把握するため平成14年度に航空測量を実施した。今後地元の皆さんの理解と協力を得て、事業化を進めていきたい。
	・補助230号線は現地測量とあわせて周辺のまちづくりの構想を検討しているところである。調査結果を踏まえて、地元練馬区と十分連携して事業化に向けた合意形成を進めている状況である。 (宮良協議員)
	・都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の中に補助230号線や放射7号線が位置づけられていないのに誰が信用するのか。 (濱本協議員)
	・第三次事業化計画で未整備路線の中から優先整備路線を位置づけている。優先整備路線は概ね10年以内に着手するという位置づけである。 (宮良協議員)
	・都の話をしていると、附帯道路がどうなるかわからないため、世田谷で大変なことが起きると思う。 (渡辺協議員)
	・外環を考える際に、周辺道路整備も一体のものとして考えなければならないというルールが絶対必要である。
・分流下水化でも地下水が止まる、あるいは変わるケースがあるようだ。成城みつ池の湧水が切れたことが問題になっているようなので、報告して欲しい。	
・交通の分析を見ると、外環ができると環八の用賀・瀬田交差点間は交通量が同程度になっているので、この区間は実際には交通量が増える恐れがあると思う。国は交通量の根拠をもう一度出して欲しい。 (栗林協議員)	
・練馬の21項目をみると、外環ができることで解決されるであろう項目も見られる。もし仮に外環が以後全然できなかつたら、現状で満足できるのか。 (新協議員)	

	<ul style="list-style-type: none"> ・外環そのものの機能を発揮するために、東名まで抜かないと練馬の抜本的解決には到らない。 ・外環周辺の地域ではその地区の基盤をきちっと、そのときに合わせてやっておく必要がある。(平野協議員) ・練馬の周辺基盤整備に関して、11年後の外環(埼玉区間)が整備された時点でも回答がなく、現在になって10年計画でやるという構想が初めてでてくると考えると、世田谷だったらどうするつもりだろうと思う。 ・三鷹でもインターチェンジに集まる車の問題をどう解決していくのかという大きな問題を突きつけられており、事前に計画をたてて同時に処理しない限りこの問題は解決しないと考えている。(新協議員) ・練馬の問題は、周辺基盤整備と南伸で解決するのが疑問である。 ・生活道路に通過交通が入り込んでくることについては、必ずしも道路整備をするだけではなくて、通過交通が入り込まないような工夫をするということもあると思う。(江崎協議員) ・練馬に対する指摘や質問に対して、国や都の見解や考え方を説明して欲しい。 ・練馬の21項目は、どこでも起こりうる問題と練馬特有の問題に分けて議論する必要がある。(菱山協議員) ・外環が整備される前に地域高規格10号線の計画があったのか。 ・補助135号線という計画はあったのか。(濱本協議員) ・放射7号線、補助230号線はいきなり今年の3月の事業化計画に位置づけた訳ではない。 ・谷原の対策は右折車線の買収をしながら整備をしており、笹目通りと放射7号線では立体交差を関係機関と話をしながらやっている。 ・現在事業中である環状八号線の南田中の区間が開通すれば谷原交差点の問題の解決につながる。(宮良協議員)
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

その他について	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会では、外環の必要性が主体となって話されなければいけないのではないか。(渡辺協議員) ・2004年3月23日付けの朝日新聞に一面広告を出した。【提出資料補足説明】(川瀧協議員) ・新聞広告に記載されている政府決定とは何か。(武田協議員) ・都市再生本部の決定を政府決定と言っている。(川瀧協議員) ・この新聞広告は美辞麗句を並べただけで実態を伴っていないのではないか。(武田協議員)